

エゴグラムによる競技行動の分析

Analysis of Athletic Behavior by Egograms

松 波 慎 介

I はじめに

以前に私は『競技者の自我状態と競技行動』と題して、競技スポーツにおいて記録や成績、勝敗といった競技の結果を左右する競技者の心理状態と競技行動の関係について、さらには、こうした心理状態をコントロールし、より有効な競技行動を選択することの可能性について論じた¹⁾。そこでは Eric Berne の開発した Transactional Analysis (交流分析) —以下 TA と略す—の基本的な分析概念である Ego States (自我状態) が競技者の心理状態を客観的に説明する有効な手がかりとなり得るのではないかということ、そして競技者自身が自分の自我状態に気づき、その自我状態を切替えることによって有効な競技行動の選択が可能になるのではないかということを仮説として提示した。

以上のような仮説を検証していくための第一段階としては、競技者の自我状態が現実の競技行動に明らかに反映されていることの証佐を得る必要があろう。従って今回は John M. Dusay の創案による「エゴグラム」を用いて、バドミントン競技者を対象とするエゴグラム調査を試みた。

対象者一人一人のエゴグラムと試合や練習の場面に観察された競技行動の関連性を検討することによって、競技者のエゴグラムに表われた機能的な自我状態が現実の競技行動にどのように反映されているかを探してみたい。

註

- 1) 拙稿：「競技者の自我状態と競技行動」工学院大学研究論叢 18号 1980 p. 253～272.

II 研究の方法

1 調査の概要

1982年3月、春季合宿（栃木県宇都宮）に参集した工学院大学バドミントン部の部員27名を対象に質問紙法による九大式エゴグラム調査を実施した。対象部員の内訳は4年4名、3年6名、2年9名、1年8名であった。

エゴグラム調査実施後、学内選考試合（3～4月）、関東大学リーグ戦（4～5月）、三多摩大学リーグ戦（6～7月）などの試合時における各部員のプレー、態度の観察、試合後の感想、さらに日頃の練習時にみられるプレーぶりや態度、言動などから各部員の競技行動についてのデーターを収集した¹⁾。

調査母体となった工学院大学バドミントン部は創部10年ほどの若いクラブであるが、1975年に11部リーグで優勝、1978年10部リーグ優勝、リーグ改編後の1980年5部優勝、その間に準優勝が3回ほどある。上部リーグとの実力差はかなりあるが、所属リーグにおいてはいつも1、2位を争う立場にある。

2 機能的自我状態について

TA では個人の人格には Parent（親）、Adult（大人）、Child（子供）の三つの自我状態が存在すると仮定している。これらをそれぞれ P、A、C と略すが、P と C は機能的なちがいにより、批判的な P の部分と養育的な P の部分、自由な C の部分と順応した C の部分があるとする。つまり機能的な自我状態としては Critical Parent—CP、Nurturing Parent—NP—、Adult—A—、Free Child—FC—、Adapted Child—AC—の五つが存在すると考えられている。

TA ではこのような五つの機能的な自我状態をパーソナリティーの基本的な構成要

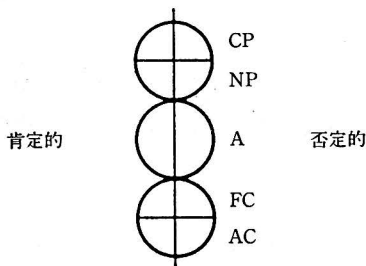


図 1 機能的自我状態
（肯定的なものと否定的なもの）

素と考えており、それらは生来的に“良い”ものとか“悪い”ものとかはなく、それぞれに肯定的な面と否定的な面があるとする³⁾。(図1)

TAにおけるこれらの自我状態、あるいは機能的な自我状態の特徴などについては前掲の拙稿『競技者の自我状態と競技行動』に詳述した³⁾ので本稿では省略する。ここではエゴグラムに基づいて競技者のパーソナリティと競技行動の関係を分析していくために参考とした工藤による資料を掲載する。

工藤はパーソナリティを分析していくための手がかりとして、エゴグラムに表われた五つの機能的自我状態の数値の高低が示す性格的な内容について次のようにまとめている⁴⁾。

① きびしさを示す性格—CP—

どちらかと言えばCPが高い数値を示す場合は“きびしさ”を、低い数値を示す場合は“ルーズ”を示すものとする。

「きびしさ」の内容

○理想主義である。 ○完全主義である。 ○あいまいなことでは満足しない。 ○黒白をハッキリさせる。 ○批判的である。 ○自他を律することにきびしい。

●相手の非を容赦しない。 ●偏見になる。 ●押しつけが多い。 ●一人よがりが多い。

●なかなか満足しない。

(○はきびしさの“良い”面を示し、●はきびしすぎる—数値が相対的に高すぎる—ための“悪い”面を示す。以下これに準ずる。)

「ルーズ」の内容

●自他を律することに甘い。 ●黒白のけじめをハッキリさせない。 ●理想主義、完全主義に欠ける。 ●公私の区別に甘い。 ●目標意識が弱い。

② 思いやりを示す性格—NP—

どちらかと言えば、NPが高い数値を示す場合は“思いやり”を、NPが低い数値を示す場合は“冷淡”を示すものとする。

「思いやり」の内容

○保護的、育成的である。 ○他人に寛大である。 ○他人のよい所を認めてホメてやる。 ○面倒見がよい。 ○奉仕的な気持が強い。

●情に流されやすい。 ●寛大すぎて甘い。 ●過保護、過干渉である。

「冷淡」の内容

●他人に対する面倒見が悪い。 ●他人のことにかかわりたくない。 ●投げ放しの点がある。 ●義理人情の点で割り切る。

③ 科学主義を示す性格—A—

この“科学主義”を示す性格Aも高い数値を示すものであり、数値が低い場合は“非科学主義”を示すものとする。

「科学主義」の内容

○現実、実情(で判断する)主義である。 ○必要な情報を集めるため誰とでも会い、又よ

く質問する。 ○判断力がある。 ○冷静で理性的である。 ○計画性があり、能率的である。 ○決断力がある。

●事実万能（主義）にとらわれすぎる。 ●感情的なものを無視しすぎる。 ●能率主義で人間味に乏しい。

「非科学主義」の内容

●その場の思いつきや直感で行動する。 ●能率的でない。 ●冷静さに欠ける。 ●決断するのに苦労する。 ●計画性がない。 ●判断力が弱い。

④ 自由、感情を示す性格—FC—

この性格のFCも、高い数値の場合は“自由で感情的”なものを示し、数値の低い場合は“畏縮”を示すものとする。

「自由で感情的」の内容

○開放的で、自由に振舞える。 ○遠慮がない。 ○喜怒哀楽の感情が豊か。 ○親密さがある。 ○好奇心が強い。 ○時にはアッと言わせる奇計を見せる。

●わがまま。 ●まじないや直観にたよる。 ●欲しいものはあくまで欲しがる。 ●無思慮な行動をすることがある。

「畏縮」の内容

●孤立的である。 ●閉じこもりがちだ。 ●人見しりする。 ●問題から逃げがちだ。

●感情硬直で話し方や行動がぎごちない。

⑤ 従順、協調を示す性格—AC—

数値が高い場合は“従順、協調”を示し、数値の低い場合は“抵抗、反抗”を示すものと考える。

「従順・協調」の内容

○周囲の人々と協調してゆける。 ○他人の言うことをよく聞く。 ○状況に適応する。

○素直で上の人に従う。 ○自分の非を素直にわびる。

●人の言うことに気をつかう。 ●自己主張しない。 ●自分の本音で生きていない。

●人の犠牲になる。 ●相手の顔色をうかがう。

「抵抗・反抗」の内容

●心の中に常に反抗的な気持、抵抗をもっている。 ●上司や部下（他人）の意見を傾聴しない。 ●自分の非を素直に認めない。 ●きまになる。 ●自己の意見を主張してやまない。

3 エゴグラムについて

本研究において競技者のパーソナリティー分析の方途として用いたエゴグラムはDusayの創案によるものである。Dusayによると、『エゴグラムとは、それぞれのパーソナリティーの各部分同志の関係と、外部に放出している心的エネルギーの量を棒グラフで示したものの⁹⁾』で、パーソナリティーの五つの基本的構成要素であるCP、NP、A、FC、ACをもとに簡単明瞭なプロフィールとして各人の性格傾向を描き出すものである。Dusayによるエゴグラムの描き方は、『先ず自分が感じるもので最も

No. 大 生年月日 昭 年 月 日 男 性別 女
氏 名
以下の質問に、はい(○)、どちらともつかない(△)、いいえ(×)のようにお答え下さい。ただし、できるだけ○か×で答えるようにして下さい。

1	あなたは、何ごともきこつとしないと気がすまないほうですか		
2	人が間違つたことをしとき、なかなか許しませんか。		
3	自分を責任感のつよい人間だと思いますか。		
4	自分の考えをゆすらないで、最後までおし通しますか。		
5	あなたは礼儀、作法についてやかましくしつけを受けましたか。		
6	何ごとも、やりだしたら最後までやらないと気がすみませんか。		
7	親から何か言われたら、その通りにしますか。		
8	「ダメじゃないかい」「……しなくてはいけない」という言い方をしますか。		
9	あなたは時間やお金にルーズなことが嫌いですか。		
10	あなたが親になつたとき、子供をきびしく育てると思いますか。		
点			

1	人から道を聞かれたら、親切に教えてあげますか。		
2	友だちや年下の子供をほめることがよくありますか。		
3	他人の世話をするのがすきですか。		
4	人の悪いところよりも、よいところを見るようにしますか。		
5	がつかりしている人がいたら、なくさめたり、気づけてやりますか。		
6	友だちに何か買ってやるのがすきですか。		
7	助けを求めると、私にまかせなさい、と引きうけますか。		
8	だれかが失敗したとき、責めないで許してあげますか。		
9	弟や妹、または年下の子をかいがいるほうですか。		
10	食べ物や着る物のない人がいたら、助けてあげますか。		
点			

1	あなたはいろいろな本をよく読むほうですか。		
2	何かうまいいかなくても、あまりカッとなりませんか。		
3	何か決めるとき、いろいろな人の意見をきいて参考にしますか。		
4	はじめてのことを自分の場合、よく調べてからしますか。		
5	何かする場合、自分にとって損か得かよく考えますか。		
6	何か分らないことがあると、人に聞いたり、相談したりしますか。		
7	体の調子のわるいとき、自重して無理しないようにしますか。		
8	お父さんやお母さんと、冷静に、よく話し合いますか。		
9	勉強や仕事をテキパキと片付けていくほうですか。		
10	遅寝やうらないなどは、絶対に信じないほうですか。		
点			

エゴグラムによる競技行動の分析

1	あなたは、おしやれが好きなんほうですか。		
2	裕ときわいだり、はしゃいだりするのが好きですか。		
3	「わあ」「すげえ」「かっ！」「かっ！」などの感嘆詞をよく使いますか。		
4	あなたは言いたいことを遠慮なく言うことができますか。		
5	うれしい時や悲しい時に、顔や動作に自由に表わすことができますか。		
6	ほしい物は、手に入れないと気がすまないほうですか。		
7	興作の友人に自由に話しかけることができますか。		
8	人に冗談を言ったり、からかつたりするのが好きですか。		
9	絵をかいたり、歌をうたつたりするのが好きですか。		
10	あなたはイヤなことをイヤと言いますか。		
点			

1	あなたは人の顔色をみて、行動をとるようなくせがありますか。		
2	イヤなことやイヤと言わずに、おさえてしまうことが多いですか。		
3	あなたは劣等感がつよいほうですか。		
4	何か頼まれると、すぐにやらないで引き延ばすくせがありますか。		
5	いつも無理をして、人からよく思われようと努めていますか。		
6	本当の自分の考えよりも、親や人の言うことに影響されやすいほうですか。		
7	悲しみやゆううつな気持ちを表に出すことがよくありますか。		
8	あなたは遠慮がちで消極的なほうですか。		
9	親のこきげんをとるような面がありますか。		
10	内心では不満だが、表面では満足しているように振舞いますか。		
点			

20									
18									
16									
14									
12									
10									
8									
6									
4									
2									
0									
	CP	NP	A	FC	AC				

昭和 年 月 施行 ○ 2点 △ 1点 × 0点

特徴的な自我状態を選び、縦に棒を書く（これが一番高い棒になる）。次に最も表われにくいと感じる自我状態の部分に棒を書く（これが一番低い棒になる）。この2本の棒と相対的に他の自我状態を全部書き込む⁶⁾。』というきわめて簡単な方法で、各自我状態の大きさを直観に委ねるものである。今日の日本では、客観的安定的な方法への志向から、質問紙法によるエゴグラムの作成が試みられるようになっており、九大の杉田らによる九大式⁷⁾、同じく杉田らによる ECL⁸⁾、SS 製薬の西沢らによる DMS—SS⁹⁾ などがある。

本研究では、九大の杉田らによる九大式エゴグラムの青少年用（表1）を実施した。エゴグラムによるパーソナリティーの分析及び機能的自我状態と競技行動の関連性の検討を進めるについては、Dusay, 杉田らの臨床的な解釈に基づき、前掲の工藤による資料などを参考とした。

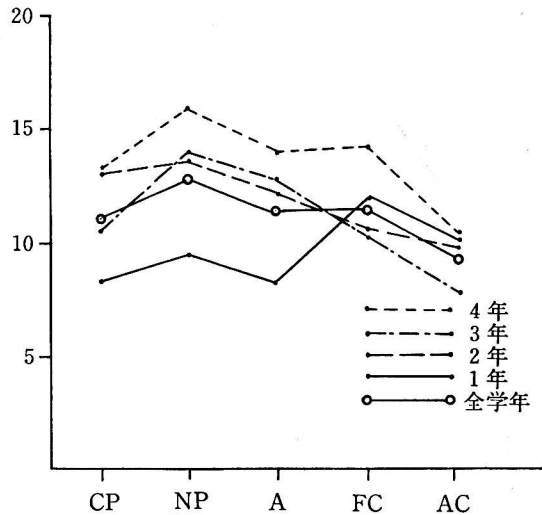
註

- 1) 4年生については調査以前の練習試合、前年度の秋季リーグ戦等におけるデータを参考とした。
- 2) ジョン M デュセイ（新里里春訳）：「エゴグラム」 創元社 1980 p. 20,
- 3) 拙稿：「競技者の自我状態と競技行動」工学院大学研究論叢 18号 1980 p. 257～264,
- 4) 工藤隆生：「性格五星法」 近代セールス社 1980,
- 5) ジョン M デュセイ（新里里春訳）：「エゴグラム」 創元社 1980 p. 19,
- 6) 前掲書 p. 33～34
- 7) 杉田峰康他「思春期心身症患者と非行少年—エゴグラムによる比較—」交流分析研究 2 巻2号 1977 p. 30,
- 8) 杉田峰康他「新しいエゴグラム・チェック・リスト (ECL) について」交流分析研究 4 巻1号 1979 p. 28～35,
- 9) 拙稿「競技者の自我状態と競技行動」工学院大学研究論叢 18号 1980 p. 269～271

Ⅲ 調査結果とその考察

エゴグラム調査の結果得られた工学院大学バドミントン部々員27名のエゴグラム・プロフィールのそれぞれについて、エゴグラムに表われた機能的自我状態の特徴と、観察された具体的な競技行動の特徴の関連性を検討した。ここでは1学年に1人、それぞれにエゴグラム・プロフィールの型状を異にする4例を抽出し、その検討の詳細について述べていきたい。又、残る23例については、それぞれのエゴグラムに特徴的に表われている具体的な競技行動について簡単にまとめ、一覧表（表7）にして掲載した。又、個々のエゴグラムを検討していくための比較対象の資料として、学年別平均及び全体平均のプロフィール（表2）も掲載したが、学年別傾向、全体傾向などにつ

表 2 学年別及び全学年平均プロフィール



察は本論の主旨ではないので割愛した。

1 S. C の場合

〔競技行動の特徴〕

S. C はキャプテンの経歴をもつ4年生で、部内では最も実力が安定しており、信頼度が高い。ゲーム運びが冷静で、状況に応じて適確であり、ゲームの組み立てがうまい。攻守のバランスがよくとれており、守勢に立たされれば慎重に継いでねばることもし、チャンスとみたら積極果敢に攻めに転じることもできる。しかし、後輩とのゲームや楽な試合などで相手のペースに合わせすぎて苦戦したり、実力伯中で最後までせり合うようなゲームのときに、今一步勝負強いところがなく勝てないことがよくある。

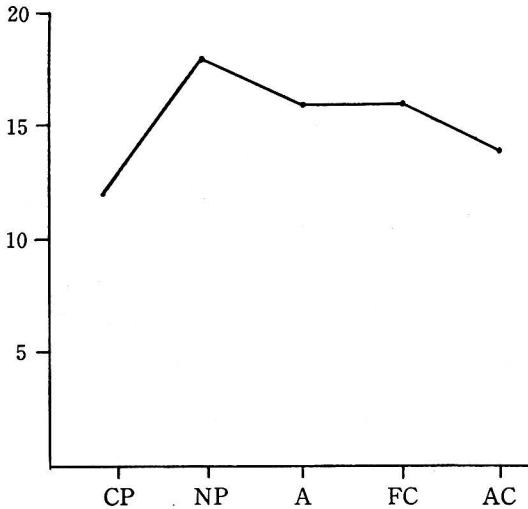
〔エゴグラムの特徴〕

S. C のエゴグラム (表3) に特徴的なのは、P、A、C のどの数値も比較的高く、それぞれの間にきわだった差異がみられないことと、機能的にみた場合に CP が相対的に低くなっていることである。

〔競技行動とエゴグラムの関係〕

- ① P. A. C が高い数値でバランスしているため、どの自我状態も状況に応じて機能させることができると思われる。そのことが「安定した実力、高い信頼度」と

表 3 S・Cのエゴグラム



結びついているものと考えられる。

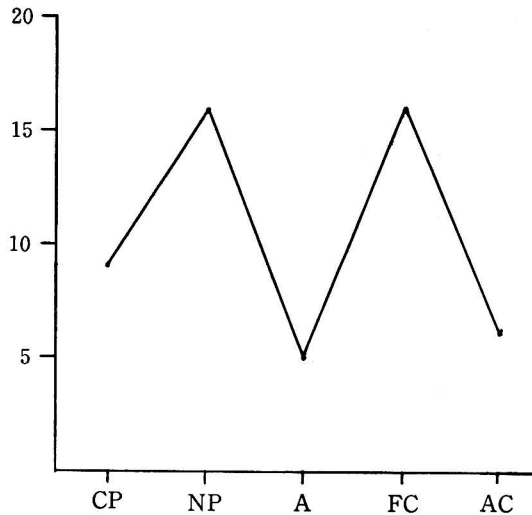
- ② 高いAは冷静で、判断力があり、計画的であるといったパーソナリティー特性を含んでおり、これが「ゲームの組み立てのうまさ、冷静で適確なゲーム運び」となって反映しているものと思われる。
- ③ 本能的、直観的にのびのびと振舞えるFCの自我機能と、従順で、我慢強く、慎重なACの自我機能が程よくバランスしていることにより、「積極果敢な攻撃と、慎重でねばり強い守備のバランスがよくとれている」ものと思われる。
- ④ 相対的にCPが低くなっているため、物事を成し遂げようとするとき、きびしさにやや欠ける面があると思われる。これが高いNPの他人に対する寛大さと相まったとき、「相手のペースに合せすぎ」たり目標意識の甘さから「勝負強さにやや欠ける」面となって表われるものと考えられる。

2 M・S の場合

〔競技行動の特徴〕

M・Sは3年生であるが、今だにうまくいこうとか相手に勝とうとする積極的な意欲が感じられない。後輩の世話など他人の面倒見はよいが、練習態度は気まぐれで、参加頻度も少なくムラが多い。バドミントンのプレーは非常に奔放で攻撃的であるが、イージーミスが多く自滅が目立つ。ゲームの組み立てや展開の仕方に合理性がな

表4 M・Sのエゴグラム



く、行き当たりバッタリな面が多い。

〔エゴグラムの特徴〕

M・Sのエゴグラム(表4)は、NPとFCを頂点とする典型的なM型のプロフィールを描いている。つまりCにおいて $FC > AC$ で、その差が著しく、Pにおいても $NP > CP$ で、その差はかなりはっきりしている。又、Aが最も低い数値を示しているのが大きな特徴といえる。

〔競技行動とエゴグラムの関係〕

- ① CにおいてFCが高いため、開放的で自由なパーソナリティーの側面が強く機能し、それが、「奔放な攻撃的なプレー」となって表われていると思われる。又、高いFCのわがままな一面が、協調性に欠け、きままになりやすいといったACの低さによる特徴と相まって、「気まぐれな練習態度、ムラのある参加姿勢」として表われているといえよう。
- ② Aが最も低いいため、計画的、能率的に物事を押し進め、冷静に客観的な判断を下していくということが苦手なようで、その場の思いつきや直観で行動しやすくなり、「イーザーミスを重ねて自滅」したり、「行き当たりバッタリのゲーム運び」になってしまうと思われる。
- ③ Pにおいて $NP > CP$ の関係が顕著なため、他人の面倒はよくみる(高いNP)が自他を律するのに甘く、自己目標を達成せんとする意欲に欠ける(低いCP)

面があると思われる。そのため、「後輩の世話はするが、自らうまくなろう、勝とうという積極的意欲が出ない」ものと考えられる。

3 K. M の場合

〔競技行動の特徴〕

K. M は2年生であるが、バドミントン経験が豊富で、体力、技術などの総合力ではクラブで1、2の力を有している。ところが試合になると硬くなりやすく、安定感に欠けるため、今一つ信頼がおけない。自分の犯した1つのミスに必要以上にこだわる場所があり、自責的になってプレーが畏縮してしまうことが多い。先制攻撃をかけられると弱気になり、プレーが消極的になって守勢一方のゲーム展開になりやすい。

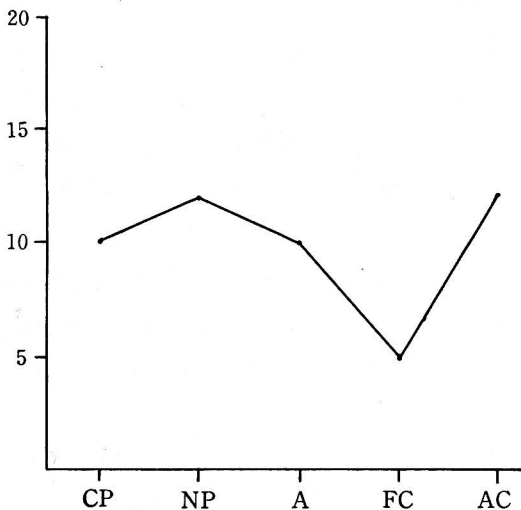
〔エゴグラムの特徴〕

K. M のエゴグラム(表5)の特徴はCにみられ、 $AC > FC$ でその差が顕著であること、FC がどの機能的自我状態よりもかなり低い数値を示していることである。又、Cを除けば、目立つ自我機能特徴がみられない。

〔競技行動とエゴグラムの関係〕

- ① FC が低いため、精神的なプレッシャーを受けて畏縮してしまう傾向がうかがわれる。こうした一面が「試合で硬くなったり、ちょっとしたミスからプレーが

表5 K・Mのエゴグラム



畏縮してしまう」ことにつながるものと思われる。

- ② AC が FC に比べて相対的に高い数値を示すため、自己不信に根ざした自責的な面や、自己主張できない気の弱いところがあると思われ、それが「ミスへの自責的なこだわり」、「先手を打たれて弱気になり、守勢一方のゲーム展開」となる消極的なプレーぶりに観察される。

4 S.F の場合

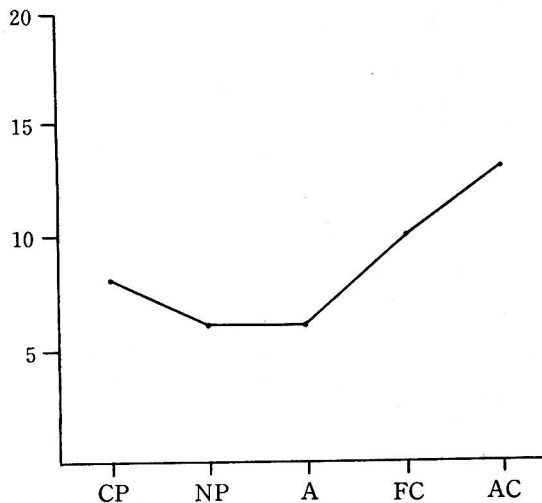
〔競技行動の特徴〕

1年生の S.F は感情の起伏がそのままプレーに表われるタイプである。ちょっとしたことでカッとなりやすく、チャンスショットを安易にミスするケースが多い。リズムに乗ると一方的に押しまくるが、一端つまずくと意気消沈して相手のペースに巻き込まれ、守勢一方になることが多い。ダブルスゲームを苦手とし、一人よがりなラフプレーが目立ち、バックアップやカバーリングが不得手である。

〔エゴグラムの特徴〕

S.F のエゴグラム(表6)は相対的にCがAやPに対して優勢である。最も高い数値を示す機能的自我状態は AC で、NP と A が最も低い数値を示している。

表6 S・Fのエゴグラム


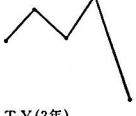
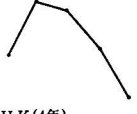
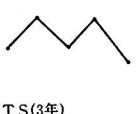
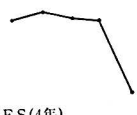
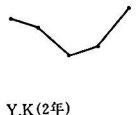

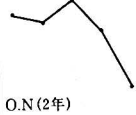
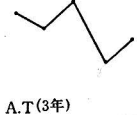
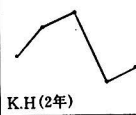
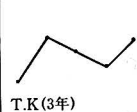
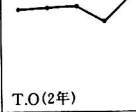


〔競技行動とエゴグラムの関係〕





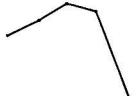




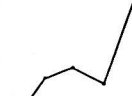
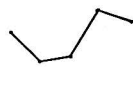
- ① 感情や衝動から成り立つCが主導権を握りやすいため、「感情の起伏にまかされたプレー」になりがちと思われる。

- ② AC が最も高く機能しているため、自責的な感情にとらわれて消極的、受動的になりやすいと思われ、「意気消沈した守勢一方のプレー」となって表われるようである。
- ③ A が低いため、冷静で落ち着いた堅実さに欠けるようで、「ちょっとしたことにカッとなったり、チャンスショットを落ち着いて処理できなかったり」するものと思われる。
- ④ NP が低いため、パートナーとしての共感性が低く、冷淡な面がうかがえる。又、CP も低めなため、最後までやり遂げようとする厳しさに欠けるようで、この両面が相まって、「ダブルスゲームにおける1人よがりなラフプレー、カバーリング、バックアップのまずさ」となって表われるものと考えられる。

表 7 エゴグラムと競技行動 (23例)

エゴグラム CP NP A FC AC	競技行動の特徴	エゴグラム CP NP A FC AC	競技行動の特徴
 K.K(4年)	<ul style="list-style-type: none"> ●勝利に対する食欲があり、負けずぎらい。 ●ワンマンプレーが多くシングルス向き。 	 T.Y(3年)	<ul style="list-style-type: none"> ●多少のミスや結果の成否にこだわらぬ思い切ったプレー。 ●好・不調の波が大きく、気が向かないとゲームをすてる。
 H.K(4年)	<ul style="list-style-type: none"> ●プレーにあまり熱中せず、マイペースで気まま。 ●他人の世話はよくみるが、自分自身、勝利欲が低い。 	 T.S(3年)	<ul style="list-style-type: none"> ●子見を働かせて積極的によく動く。 ●プレーに落ち着きがなく慎重さに欠ける。
 E.S(4年)	<ul style="list-style-type: none"> ●堅実なゲームを展開し安定している。 ●協調性に欠けるためか、ダブルスが組めない。 	 Y.K(2年)	<ul style="list-style-type: none"> ●試合で動揺したり硬くなる傾向が強い。 ●ゲームの結果にこだわる傾向があり、落ち込みやすい。
 T.S(3年)	<ul style="list-style-type: none"> ●合理的なシャトル運びをめざすが、プレーはぎこちない。 ●とれないシャトルでもとことん追う努力家。 	 O.N(2年)	<ul style="list-style-type: none"> ●競技目標が高く研究熱心で、思慮深いプレーがめだつ。 ●パートナーの動きに合わせたプレーが不得手。
 A.T(3年)	<ul style="list-style-type: none"> ●計算されたゲームを展開するが、子見による敏捷なプレーが苦手。 ●自他のプレーに厳しく、1つのミスにこだわりすぎる面がある。 	 K.H(2年)	<ul style="list-style-type: none"> ●子見による素早い対応がなく、チャンスをものにできない。 ●いつも冷静でラフプレーは少ないが、あきらめがはやい。
 T.K(3年)	<ul style="list-style-type: none"> ●ダブルスが得意で誰とでもパートナーが組める。 ●よくカバーに奔走するが動きすぎて、自滅することもある。 	 T.O(2年)	<ul style="list-style-type: none"> ●ゲーム展開は合理的でうまく、攻める強さがない。 ●相手のベースにのまれることが多い。

エゴグラムによる競技行動の分析

エゴグラム CP NP A FC AC	競技行動の特徴	エゴグラム CP NP A FC AC	競技行動の特徴
 K.N(2年)	<ul style="list-style-type: none"> ●負けず嫌いで、最後まで勝つ努力をおしまない。 ●思慮深いプレーの選択をおこたり、ボカミスをする。 	 R.A(1年)	<ul style="list-style-type: none"> ●どちらかといえば直感的なプレーが多く、ゲームを合理的に組み立てるのには不得手 ●ゲーム運びが荒い
 T.Y(2年)	<ul style="list-style-type: none"> ●敏捷な動きがなく、ゲームの流れについていけない。 ●自分のプレーより、パートナーのプレーに関心がある。 	 M.N(1年)	<ul style="list-style-type: none"> ●子見を動かした動きは敏捷であるが、安定感には欠ける。 ●ゲーム運びに落ち着きがなく、思慮を欠いたプレーが多い。
 S.A(2年)	<ul style="list-style-type: none"> ●試合にのぞんで冷静でマイペースのプレーを展開する。 ●思い切りよくプレーするが慎重なねばりが無い。 	 T.K(1年)	<ul style="list-style-type: none"> ●ゲーム運びに全く、緻密なところがなく、イージーミスが多い。 ●あきらめが早く、ゲームを勝手に投げ出すところがある。
 Y.O(2年)	<ul style="list-style-type: none"> ●自分に自信がなく、能動的なプレーを回避する。 ●うまくいかなかったゲームの言い訳をいつも用意している。 	 I.W(1年)	<ul style="list-style-type: none"> ●プレーが、大雑把でプレーズメントも甘い。 ●自信のないプレーがめだち、肝心ところで消極的になる。
 K.K(1年)	<ul style="list-style-type: none"> ●プレーが控めて、やや逃げ腰なところがある。 ●ややあきらめが早く、欲がない。 	 T.H(1年)	<ul style="list-style-type: none"> ●対決的な意欲に欠け、試合を回避したがる。 ●プレーはぎこちなく、いつも受身で、ショットが甘い。
 S.M(1年)	<ul style="list-style-type: none"> ●感覚的な鋭いプレーをみせたかと思うと、意気消沈した鈍重なプレーに変るなど、プレーに気分的な浮沈が表われやすい。 		

Ⅳ ま と め

以上、工学院大学バトミントン部を対象に得られた27例のエゴグラムの各々について、プロフィールに表われたパーソナリティーの特徴と、具体的に観察される競技行動の関連性を検討した。その結果、競技者のエゴグラムに表われた機能的自我状態の特徴は、かなりの部分でその人の具体的な競技行動に観察されることが明らかとなった。それは特に次のような場合について顕著であったといえよう。

- ① 1つ1つの自我状態が顕著に高い、あるいは低い場合、その特徴が競技行動にかなり明確に観察される。

- ② 各自我状態間の相対的な高低差が大きい程、そのパーソナリティー特性は競技行動に反映されやすい。
- ③ Aが相対的に低い場合、他の自我状態の特徴が競技行動に表われやすい。
- ④ Cにおける FC と AC、P における CP と NP の相対的な関係は競技行動に観察されやすい。

以上の考察から、競技者にとって TA における五つの機能的自我状態は、自分の競技行動を決定する強力な因子となるといえる。自我状態は通常自分自身がはっきりそれを意識でき、観察できる部分であると言われる。自分の自我状態の存在を明確に意識することができれば、それが自分のどのような競技行動を導き出しているかを客観的に把握することが可能であるといえよう。又、エゴグラムはそうした競技行動を導き出す五つの機能的自我状態のエネルギー分布を簡便な形で示してくれる。このエゴグラム・プロフィールを用いれば、日頃の自分のプレーぶりや、試合や練習に臨む態度など、具体的な競技行動の客観的な分析が可能となろう。

〔参考文献〕

- 1) E. バーン (杉田峰康訳)：「交流分析と心身症」 医歯薬出版 1973
- 2) ジョン・M・デュセイ (新里里春訳)：「エゴグラム」 創元社 1980
- 3) 工藤隆生：「性格五星法」 近代セールス社 1980
- 4) 松波慎介：「競技者の自我状態と競技行動」 工学院大学研究論叢 18号 p. 253～272 1980
- 5) 村上利範他：「高校生とその両親のエゴグラムについて」 交流分析研究 4巻4号 p. 32～43, 1979
- 6) 村上利範他：「非行少年とつの両親のエゴグラム」 交流分析研究 3巻2号 p. 33～42, 1978
- 7) 杉田峰康他：「心理と生理」 <上—交流分析アメリカ版> 西日本新聞社 1977
(本研究の一部については第33回日本体育学会にて発表した)

まつなみ しんすけ 保健体育 本学講師)